

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	NPO 法人 あったかほーむ愛あい	代表者	横山美智子	法人・事業所の 特徴	地域密着型で通所・訪問・宿泊・看護の4つのサービスを柔軟に取り入れながら利用者様やご家族が不安のない生活が送れる様に支援しています。また、医療依存の方や看取りの支援も行っています。
事業所名	看護小規模多機能 音OTO	管理者	横山麻彌		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	4人	人	人	1人	人	5人	人	11人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	外部評価メンバーには、今回上げられた改善計画が伝わっているという結果となった。	今年度、外部評価メンバーへ改善計画は理解が得られている結果となった。	ご意見等はなかった。	引き続き、事業所の自己評価を外部評価メンバーへ分かりやすく説明をする。
B. 事業所のしつらえ・環境	しつらえや環境は、居心地の良い空間、事業所に入りやすいとなっている結果になった。今後も利用者や家族にとって良い環境作り、地域の方々とも交流を図っていききたい。	しつらえや環境は、整っているという結果であった。コロナ禍で面会制限等があったが、動画やリモート等を活用して家族との交流を図った。	認知症の方の対応として、玄関先にカメラやセンサー等の環境設定等の必要はないか？との意見あり	センサーなどの環境を活用せずにスタッフ同士で声をかけあう。利用者等にとって居心地の良い空間を提供する。
C. 事業所と地域のかかわり	コロナ禍でなければ地域の行事やイベントへの参加をしてきたい。また、事業所として相談できる場所作りをするために、事業所のPRもしていきたい。	職員のあいさつは出来ており、困りごとの相談しやすい環境となっている。近隣の方々は施設のことは知っているが、地域全体には不十分である。	法人のパンフレットが欲しいという意見がみられた。	地域の方の交流や家族等の面会を施設の行事などを用いて増やす。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	コロナの影響もあり、なかなか地域の行事やイベントに利用者様が参加できていない。事業所として、地域の方が参加できるイベントなどの計画を立てていこうとは考えている。	地域のイベントや行事はコロナ禍で中止されていた。	ご意見等はなかった。	地域の行事やイベントを把握し、行事計画へ盛り込み、参加していく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	継続して事例検討も行うが、それ以外で地域活動の内容なども計画し、取り組み報告していく。	事業所の取り組みが分かりやすく説明され、事例検討も行われている結果となる。意見も改善に繋がられているという結果となる。	事例発表後のその経過なども再度報告してほしいなどの意見もみられた。	運営推進会議の中で、事例発表を行い、いただいた意見等を施設運営に活かしていく。
F. 事業所の防災・災害対策	事業所として防災計画が定期的に行われている。次年度は地域の方々に参加してもらえるように声かけていく。	新型コロナウイルス感染拡大により訓練自体行えることが少なく、地域の方への取り組み声掛けも行うことができなかった。	ご意見等はなかった。	年3回の防災計画の中で地域住民や近隣の施設との合同訓練等を行っていく。

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	NPO法人 あったかほーむ愛あい	代表者	横山美智子	法人・ 事業所 の特徴	当法人理念「一人ひとりの気持ちに寄り添い その人の望む暮らしができるように 一緒に地域で生きていく」 この理念に沿って、一人ひとりの生活を重要視しながら、またその状況に応じた 支援をし、望む生活の維持を支えていく事を目的にしている。
事業所名	小規模多機能 あったかほーむ愛あい	管理者	湊 広行		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	1人	人	人	1人	人	8人	人	11人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	送迎後、朝礼の申し送り 利用者に関する申し送り 報連相を毎日行う。	当日、休みの方など参加して ない職員には周知出来てない こともあった。	スタッフ間の申し送りの受取違 いが見られた。	朝礼の申し送り・利用者に関する 報連相を毎日行う。
B. 事業所の しつらえ・環境	花壇や植木鉢に花を植えたり 室内の整理整頓を行い、 居心地の良い環境を作る。	少ない人数ではあるが、施設周辺の草 取りを実施。花壇に花を植えたりした。 業務終了後はテーブル上の片付けを実 施した。	外部から来所された方が不快に 思わない様に環境作りを行う。	事業所内の整理整頓を行い、 働きやすい環境を作る。 施設周辺の環境整備を行う。
C. 事業所と地域の かかわり	挨拶の継続と地域行事 イベントへの協力を行う。	地域の方々へ挨拶のしっかり 行えた。イベントは中止が多く 参加できていない。	地域行事を把握し、スタッフで 情報収集を行う。	継続してしっかりと挨拶を行い、 地域との交流を深める。 可能な限りイベントへの協力 を行う。
D. 地域に出向いて 本人の暮らしを 支える取組み	利用者の住んでいる地域行事を スタッフで情報収集し、参加に つなげる。	買い物希望の利用者には、同伴し ている。行事が少なく参加できな かった。	送迎や訪問時等、近所の方と会話 することで関係性を保つ。	利用者の住んでいる地域行事へ 情報収集を行い、参加につなげる
E. 運営推進会議を 活かした取組み	運営推進会議で事例の報告や 取り組み、状況報告を行う。	会議の内容を全スタッフに 上手く伝達できなかった。	コロナ禍で報告のみで会議の 回数が減った。	事例や事業所の活動内容を 報告していく。
F. 事業所の 防災・災害対策	BCPについて理解する。	BCPへの取り組みはできて いるが、地域住民への報告が できていなかった。	緊急事態に備えた準備をしてお く。	BCPについて理解する。

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	NPO法人 あつたかほーむ愛あい	代表者	横山 美智子	法人・ 事業所 の特徴	「一人ひとりの気持ちに寄り添い、その人が望む暮らしができるよう支援し、一緒に地域で生きていく」を事業所の理念とし、地域の住民とともに、安心して生活できるよう地域の力を借りながら、共に生きる場を実現することを目的としている。
事業所名	トムソーヤ	管理者	末永 悦子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1 人	人	1 人	人	人	1 人	人	8 人	5 人	13 人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 自己評価の確認	職員会議だけでなく、職員間で情報交換が出来るような時間を設け、担当利用者の取り組みの幅が持てるようにする。	前回の取組み・結果と同様に、昼休みの時間を利用し、職員間で情報交換を行うようにした。	前回よりも数的なものについては下がっていると思われる。意識が薄くならないように今一度話す時間を意識していく。	職員会議だけでなく、職員間で情報交換が出来るような時間を設け、担当利用者の取り組みの幅が持てるようにする。
B. 事業所のしつらえ・環境	勉強会の実施やヒヤリハットの提出枚数を増やし、検討を行うことでヒヤリハットの意識を高めていくようにする。	ヒヤリハットの提出については、大きな変化は見られていない。提出数自体は少ないわけではない為、引き続き何かあればヒヤリハットを書くようにする。	全職員がヒヤリハットの確認をしっかりと行うことも注意して見ていきたい。	勉強会の実施やヒヤリハットの提出枚数を増やし、検討を行うことでヒヤリハットの意識を高めていくようにする。
C. 事業所と地域のかかわり	その時の利用者の状況等に合わせる形で、にこにこカフェを継続して実施していく。	コロナ流行の為、にこにこカフェの開催がほぼ出来なかった。1回のみ保育所、民生委員を招待し、開催している。	現在はお菓子類を作り、自分たちでいただくような形を取っている。外部との接触が心配な今はこのような形でも良いのではないかと。	その時の利用者の状況等に合わせる形で、にこにこカフェを継続して実施していく。
D. 地域に向いて本人の暮らしをささえる取組み	送迎や訪問時には家族からの申し送りだけでなく、生活を送っていく上で気になること等の把握を行い、職員間で情報共有を行う。	送迎の時間が利用者の住んでいる場所、時間の指定等で朝の報告が難しくなっている。今一度業務の流れの再確認が必要。	皆が集まれる時間、ない場合には直接職員一人一人に報告を行う等検討していく。	朝の状況報告の時間帯の検討及び申し送りはしっかりと行っていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	引き続き合同運営推進会議の中で互いの事例等を紹介していきながら、トムソーヤでの取り組みにも活かしていく。	合同運営推進会議では、トムソーヤの事例を紹介することが出来た。他事業所の事例も聞くことが出来、中身を知ることが出来た。	同じ小規模多機能型居宅介護という事業所でも互いの特色があり、中身を知る機会があったが、コロナの影響で開催自体が少なかった。	引き続き合同運営推進会議の中で互いの事例等を紹介していきながら、トムソーヤでの取り組みにも活かしていく。
F. 事業所の防災・災害対策	引き続き避難訓練を通して、トムソーヤ屋上への避難方法の確認を行っていく。	法人内の合同避難訓練を実施した。別法人通所介護事業所も参加し、互いに連携を行いながら無事に避難出来た。	避難タワーが出来たが、距離が遠く、トムソーヤはトムソーヤ2階が基本となる。避難訓練を繰り返していきながら、確認を行っていく。	引き続き避難訓練を通して、トムソーヤ2階への避難方法の確認を行っていく。